

島田市・金谷町新市建設計画 新旧対照表

頁	項目	変更後（新）	変更前（旧）
	計画全編にわたる文言の修正	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新東名高速道路</li> <li>・富士山静岡空港</li> <li>・新東名高速道路島田金谷インターチェンジ</li>   <li>・南海トラフ巨大地震</li> <li>・東海道新幹線富士山静岡空港新駅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二東名自動車道</li> <li>・静岡空港</li> <li>・第二東名自動車道金谷インターチェンジ</li> <li>・金谷I.C（仮称）</li> <li>・東海地震</li> <li>・新幹線新駅</li> </ul>
3	1. 序論 (2) 計画作成の方針 ③計画の期間	③計画の期間 新市建設計画の期間は、平成17年度から平成32年度までとします。	③計画の期間 新市建設計画の期間は、平成17年度から平成26年度までの10年間とします。
10	3. 主要指標の見通し (1) 人口の推移	<p>(1) 人口の推移</p> <p>日本の総人口は、2008年（平成20年）の1億2,808万人をピークにして減少に転じ、2015年（平成27年）には1億2,660万人に減少し、2050年には2008年に比べて約24%減の9,708万人と予測されています。</p> <p>ところで、島田市の総人口は、平成22年の国勢調査結果を参考に推計すると、このままこれまでと同様に推移したとすれば、合併10年後の2015年（平成27年）には、97,555人になると予測され、平成20年4月1日の旧川根町との合併による人口を加えても10万人を切る見込みです。また、年齢3区分別人口の割合は、合併15年後の2020年（平成32年）において、年少人口（0歳～14歳）12.2%、生産年齢人口（15歳～64歳）56.0%、高齢者人口（65歳～）31.8%と予測されます。2000年（平成12年）と比較すると、年少人口が3.1ポイント減、高齢者人口が11.9ポイント増となり、少子高齢化の傾向が進んでいくと予測されます。特に高齢化の傾向は顕著となります。主要な労働力、納税者である生産年齢人口は8.8ポイント減少すると予測されます。</p> <p>しかし、新市においては、新東名高速道路島田金谷インターチェンジや富士山静岡空港の開設が予定されており、新市の魅力や潜在力が高まることから、これらを活用したまちづくりによって定住人口の増加を図っていくことも新市が取り組むべき重要な課題であり、施策として取り組んでいく必要があります。こうしたことから、新市における人口については、10万人を目標としてまちづくりに取り組みます。</p>	<p>(1) 人口の推移</p> <p>日本の総人口は、2006年（平成18年）の1億2,774万人をピークにして減少に転じ、2015年（平成27年）には1億2,627万人に減少し、2050年には2006年に比べて21%減の1億59万人と予測されています。</p> <p>ところで、1市1町の総人口は、平成7年と12年の国勢調査結果から推計すると、このままこれまでと同様に推移したとすれば、合併10年後の2015年（平成27年）には、2000年（平成12年）に比べて5%減の91,265人になると予測されます。また、年齢3区分別人口の割合は、合併10年後の2015年（平成27年）において、年少人口（0～14歳）12.4%、生産年齢人口（15～64歳）58.7%、高齢者人口（65歳～）28.9%と予測されます。2000年（平成12年）と比較すると、年少人口が2.9ポイント減、高齢者人口が9.0ポイント増となり、少子高齢化の傾向が進んでいくと予測されます。特に高齢化の傾向は、非常に大きくなります。主要な労働力、納税者である生産年齢人口は6.1ポイント減少すると予測されます。</p> <p>しかし、新市においては、第二東名自動車道金谷インターチェンジ(仮称)や静岡空港の開設が予定されており、新市の魅力や潜在力が高まることから、これらを活用したまちづくりによって定住人口の増加を図っていくことも新市が取り組むべき重要な課題であり、施策として取り組んでいく必要があります。こうしたことから、新市における人口については、10万人を目標としてまちづくりに取り組みます。</p>

頁	項目	変更後 (新)	変更前 (旧)																																																																																																									
10	3. 主要指標の見通し (1) 人口の推移 「将来人口の予測」グラフ	<p style="text-align: center;"><b>将来人口の予測</b></p> <p style="text-align: center;"><b>日本の総人口の推移</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2008</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>人口(万人)</th><td>11,706</td><td>12,105</td><td>12,361</td><td>12,557</td><td>12,693</td><td>12,808</td><td>12,806</td><td>12,806</td><td>12,660</td><td>12,410</td></tr> </table> <hr/> <p style="text-align: center;"><b>新市の総人口の推移</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2008</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>人口(人)</th><td>92,562</td><td>94,470</td><td>95,858</td><td>96,084</td><td>96,078</td><td>101,009</td><td>100,276</td><td>97,555</td><td>94,356</td><td>94,356</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">新市目標人口 10万人</p> <p>・平成20年以降は旧川根町との合併を反映した数値          ・平成20年の数値は、平成17年国勢調査の島田市・旧川根町の数値の合算と、平成22年の国勢調査の島田市の数値から直線補完により算出している。</p> <p>1980年(昭和55年) 1985年(昭和60年) 1990年(平成2年) 1995年(平成7年) 2000年(平成12年) 2005年(平成17年) 2008年(平成20年) 2010年(平成22年) 2015年(平成27年) 2020年(平成32年)</p> <p style="text-align: center;">実績値 (国勢調査)      推計値</p>	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020	人口(万人)	11,706	12,105	12,361	12,557	12,693	12,808	12,806	12,806	12,660	12,410	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020	人口(人)	92,562	94,470	95,858	96,084	96,078	101,009	100,276	97,555	94,356	94,356	<p style="text-align: center;"><b>将来人口の予測</b></p> <p style="text-align: center;"><b>日本の総人口の推移</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>人口(万人)</th><td>11,706</td><td>12,105</td><td>12,361</td><td>12,557</td><td>12,693</td><td>12,771</td><td>12,747</td><td>12,627</td><td>12,441</td></tr> </table> <hr/> <p style="text-align: center;"><b>新市の総人口の推移</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>人口(人)</th><td>92,562</td><td>94,470</td><td>95,858</td><td>96,511</td><td>96,084</td><td>95,161</td><td>93,568</td><td>91,265</td><td>88,334</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">新市目標人口 10万人</p> <p>1980年(昭和55年) 1985年(昭和60年) 1990年(平成2年) 1995年(平成7年) 2000年(平成12年) 2005年(平成17年) 2010年(平成22年) 2015年(平成27年) 2020年(平成32年)</p> <p style="text-align: center;">実績値 (国勢調査)      推計値</p>	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	人口(万人)	11,706	12,105	12,361	12,557	12,693	12,771	12,747	12,627	12,441	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	人口(人)	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	95,161	93,568	91,265	88,334																					
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020																																																																																																		
人口(万人)	11,706	12,105	12,361	12,557	12,693	12,808	12,806	12,806	12,660	12,410																																																																																																		
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020																																																																																																		
人口(人)	92,562	94,470	95,858	96,084	96,078	101,009	100,276	97,555	94,356	94,356																																																																																																		
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020																																																																																																			
人口(万人)	11,706	12,105	12,361	12,557	12,693	12,771	12,747	12,627	12,441																																																																																																			
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020																																																																																																			
人口(人)	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	95,161	93,568	91,265	88,334																																																																																																			
11	3. 主要指標の見通し (1) 人口の推移 「男女計年齢3区分別人口割合」のグラフ	<p style="text-align: center;"><b>男女計年齢3区分別人口割合</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2008</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>0~14歳</th><td>21,745 (23.5%)</td><td>20,767 (22.0%)</td><td>18,494 (19.3%)</td><td>16,449 (17.0%)</td><td>14,719 (15.3%)</td><td>13,646 (14.2%)</td><td>13,848 (13.7%)</td><td>13,536 (13.5%)</td><td>12,643 (13.0%)</td><td>11,500 (12.2%)</td></tr> <tr><th>15~64歳</th><td>61,610 (66.6%)</td><td>62,800 (66.5%)</td><td>64,136 (66.9%)</td><td>63,965 (66.3%)</td><td>62,250 (64.8%)</td><td>61,009 (63.5%)</td><td>62,361 (61.7%)</td><td>61,007 (60.8%)</td><td>56,281 (57.7%)</td><td>52,844 (56.0%)</td></tr> <tr><th>65歳~</th><td>9,207 (9.9%)</td><td>10,897 (11.5%)</td><td>13,211 (13.8%)</td><td>16,097 (16.7%)</td><td>19,105 (19.9%)</td><td>21,423 (22.3%)</td><td>24,800 (24.6%)</td><td>25,733 (25.7%)</td><td>28,631 (29.3%)</td><td>30,012 (31.8%)</td></tr> <tr><th>総人口</th><td>92,562</td><td>94,470</td><td>95,858</td><td>96,511</td><td>96,084</td><td>96,078</td><td>101,009</td><td>100,276</td><td>97,555</td><td>94,356</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">実績値 (国勢調査)      推計値</p> <p style="text-align: center;">総人口 (実績)      総人口 (推計)</p> <p style="text-align: center;">■ 0~14歳   ■ 15~64歳   ■ 65歳~</p> <p>※平成20年以降は旧川根町との合併を考慮した数字          ※1985年、1990年、2000年の各総人口は年齢不詳分を含む。</p>	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020	0~14歳	21,745 (23.5%)	20,767 (22.0%)	18,494 (19.3%)	16,449 (17.0%)	14,719 (15.3%)	13,646 (14.2%)	13,848 (13.7%)	13,536 (13.5%)	12,643 (13.0%)	11,500 (12.2%)	15~64歳	61,610 (66.6%)	62,800 (66.5%)	64,136 (66.9%)	63,965 (66.3%)	62,250 (64.8%)	61,009 (63.5%)	62,361 (61.7%)	61,007 (60.8%)	56,281 (57.7%)	52,844 (56.0%)	65歳~	9,207 (9.9%)	10,897 (11.5%)	13,211 (13.8%)	16,097 (16.7%)	19,105 (19.9%)	21,423 (22.3%)	24,800 (24.6%)	25,733 (25.7%)	28,631 (29.3%)	30,012 (31.8%)	総人口	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	96,078	101,009	100,276	97,555	94,356	<p style="text-align: center;"><b>男女計年齢3区分別人口割合</b></p> <table border="1"> <tr><th>年</th><td>1980</td><td>1985</td><td>1990</td><td>1995</td><td>2000</td><td>2005</td><td>2010</td><td>2015</td><td>2020</td></tr> <tr><th>0~14歳</th><td>21,745 (23.5%)</td><td>20,767 (22.0%)</td><td>18,494 (19.3%)</td><td>16,449 (17.0%)</td><td>14,719 (15.3%)</td><td>13,608 (14.3%)</td><td>12,445 (13.3%)</td><td>11,301 (12.4%)</td><td>10,070 (11.4%)</td></tr> <tr><th>15~64歳</th><td>61,610 (66.6%)</td><td>62,800 (66.5%)</td><td>64,136 (66.9%)</td><td>63,965 (66.3%)</td><td>62,250 (64.8%)</td><td>59,761 (62.8%)</td><td>56,889 (60.8%)</td><td>53,548 (58.7%)</td><td>50,085 (56.7%)</td></tr> <tr><th>65歳~</th><td>9,207 (9.9%)</td><td>10,897 (11.5%)</td><td>13,211 (13.8%)</td><td>16,097 (16.7%)</td><td>19,105 (19.9%)</td><td>21,792 (22.9%)</td><td>24,234 (25.9%)</td><td>26,415 (28.9%)</td><td>28,179 (31.9%)</td></tr> <tr><th>総人口</th><td>92,562</td><td>94,470</td><td>95,858</td><td>96,511</td><td>96,084</td><td>95,161</td><td>93,568</td><td>91,265</td><td>88,334</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">実績値 (国勢調査)      推計値</p> <p style="text-align: center;">総人口</p> <p style="text-align: center;">■ 0~14歳   ■ 15~64歳   ■ 65歳~</p> <p>※ 1985年、1990年、2000年の各総人口は年齢不詳分を含む。          ※ 2015年推計値は、端数処理により合計と一致しない。(国立社会保障・人口問題研究所による推計値)</p>	年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	0~14歳	21,745 (23.5%)	20,767 (22.0%)	18,494 (19.3%)	16,449 (17.0%)	14,719 (15.3%)	13,608 (14.3%)	12,445 (13.3%)	11,301 (12.4%)	10,070 (11.4%)	15~64歳	61,610 (66.6%)	62,800 (66.5%)	64,136 (66.9%)	63,965 (66.3%)	62,250 (64.8%)	59,761 (62.8%)	56,889 (60.8%)	53,548 (58.7%)	50,085 (56.7%)	65歳~	9,207 (9.9%)	10,897 (11.5%)	13,211 (13.8%)	16,097 (16.7%)	19,105 (19.9%)	21,792 (22.9%)	24,234 (25.9%)	26,415 (28.9%)	28,179 (31.9%)	総人口	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	95,161	93,568	91,265	88,334
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2010	2015	2020																																																																																																		
0~14歳	21,745 (23.5%)	20,767 (22.0%)	18,494 (19.3%)	16,449 (17.0%)	14,719 (15.3%)	13,646 (14.2%)	13,848 (13.7%)	13,536 (13.5%)	12,643 (13.0%)	11,500 (12.2%)																																																																																																		
15~64歳	61,610 (66.6%)	62,800 (66.5%)	64,136 (66.9%)	63,965 (66.3%)	62,250 (64.8%)	61,009 (63.5%)	62,361 (61.7%)	61,007 (60.8%)	56,281 (57.7%)	52,844 (56.0%)																																																																																																		
65歳~	9,207 (9.9%)	10,897 (11.5%)	13,211 (13.8%)	16,097 (16.7%)	19,105 (19.9%)	21,423 (22.3%)	24,800 (24.6%)	25,733 (25.7%)	28,631 (29.3%)	30,012 (31.8%)																																																																																																		
総人口	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	96,078	101,009	100,276	97,555	94,356																																																																																																		
年	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020																																																																																																			
0~14歳	21,745 (23.5%)	20,767 (22.0%)	18,494 (19.3%)	16,449 (17.0%)	14,719 (15.3%)	13,608 (14.3%)	12,445 (13.3%)	11,301 (12.4%)	10,070 (11.4%)																																																																																																			
15~64歳	61,610 (66.6%)	62,800 (66.5%)	64,136 (66.9%)	63,965 (66.3%)	62,250 (64.8%)	59,761 (62.8%)	56,889 (60.8%)	53,548 (58.7%)	50,085 (56.7%)																																																																																																			
65歳~	9,207 (9.9%)	10,897 (11.5%)	13,211 (13.8%)	16,097 (16.7%)	19,105 (19.9%)	21,792 (22.9%)	24,234 (25.9%)	26,415 (28.9%)	28,179 (31.9%)																																																																																																			
総人口	92,562	94,470	95,858	96,511	96,084	95,161	93,568	91,265	88,334																																																																																																			

頁	項目	変更後(新)	変更前(旧)												
11	3. 主要指標の見通し (1) 人口の推移 予測の考え方	<p>総人口については、国立社会保障・人口問題研究所が公表しているコーホート要因法による推計値を採用している。</p> <p>コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法である。</p> <p><u>男女計年齢3区分別人口については、2010年までは国勢調査実績値とし、2015年、2020年は国立社会保障・人口問題研究所が公表している推計値を採用している。なお、2008年の値は、国勢調査実績値間の構成割合の増減を参考に算出し、「島田市・川根町まちづくり計画」に掲載する数値と整合を図るとともに、2015年の値については「島田市総合計画後期基本計画」中に掲載した年齢3区分別人口の推計と整合を図っている。</u></p>	<p>総人口については、国立社会保障・人口問題研究所が公表しているコーホート要因法による推計値を採用している。</p> <p>コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法である。</p> <p><u>年齢3区分別人口については、2015年の値は、人口問題研究所が公表している推計値の値を採用している。2005年、2010年、2020年については、2000年実績値及び2015年推計値間の構成割合の増減と同様の変化が各年に発生するものとして、各年の構成割合を算出するとともに、この割合に応じて各年代の人口を算出している。</u></p>												
25	5. 新市の主要施策 (2) 基本方針と主要施策 1 都市・生活基盤が充実したまち ●施策の柱と主要事業の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">いのちを守る防災・安全体制の充実</td> <td>災害に強い防災体制構築事業 (削除)</td> </tr> <tr> <td>消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	いのちを守る防災・安全体制の充実	災害に強い防災体制構築事業 (削除)	消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">いのちを守る防災・安全体制の充実</td> <td>災害に強い防災体制構築事業 ・金谷支所庁舎耐震補強事業</td> </tr> <tr> <td>消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	いのちを守る防災・安全体制の充実	災害に強い防災体制構築事業 ・金谷支所庁舎耐震補強事業	消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業		
施策の柱	主要事業														
いのちを守る防災・安全体制の充実	災害に強い防災体制構築事業 (削除)														
	消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業														
施策の柱	主要事業														
いのちを守る防災・安全体制の充実	災害に強い防災体制構築事業 ・金谷支所庁舎耐震補強事業														
	消防、水防、防犯、交通安全推進による安全・安心のまちづくり事業														
27	5. 新市の主要施策 (2) 基本方針と主要施策 2 広域交通基盤を活かし、ヒトやモノ、情報などが活発に連携・交流するまち ●施策の柱と主要事業の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成</td> <td>交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・<u>新東名島田金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業(変更)</u></td> </tr> <tr> <td>企業・専門教育機関・研究機関誘致や<u>魅力発信</u>による新市発展拠点形成事業 (削除) (削除) ・<u>お茶の都づくり関連事業</u></td> </tr> <tr> <td>通過点にしない“新”宿場町形成事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成	交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・ <u>新東名島田金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業(変更)</u>	企業・専門教育機関・研究機関誘致や <u>魅力発信</u> による新市発展拠点形成事業 (削除) (削除) ・ <u>お茶の都づくり関連事業</u>	通過点にしない“新”宿場町形成事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成</td> <td>交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・<u>第二東名金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業</u></td> </tr> <tr> <td>企業・専門教育機関・研究機関誘致による新市発展拠点形成事業 ・<u>航空関連専門学校誘致事業</u> ・<u>国際救急支援機能誘致事業</u></td> </tr> <tr> <td>通過点にしない“新”宿場町形成事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成	交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・ <u>第二東名金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業</u>	企業・専門教育機関・研究機関誘致による新市発展拠点形成事業 ・ <u>航空関連専門学校誘致事業</u> ・ <u>国際救急支援機能誘致事業</u>	通過点にしない“新”宿場町形成事業
施策の柱	主要事業														
全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成	交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・ <u>新東名島田金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業(変更)</u>														
	企業・専門教育機関・研究機関誘致や <u>魅力発信</u> による新市発展拠点形成事業 (削除) (削除) ・ <u>お茶の都づくり関連事業</u>														
	通過点にしない“新”宿場町形成事業														
施策の柱	主要事業														
全国・世界へ広がる物流・交流拠点の形成	交通拠点化を活かす周辺基盤整備事業 ・空港隣接地域振興事業 ・ <u>第二東名金谷インターチェンジ周辺地域基盤整備事業</u>														
	企業・専門教育機関・研究機関誘致による新市発展拠点形成事業 ・ <u>航空関連専門学校誘致事業</u> ・ <u>国際救急支援機能誘致事業</u>														
	通過点にしない“新”宿場町形成事業														

頁	項目	変更後 (新)	変更前 (旧)																
29	5. 新市の主要施策 (2) 基本方針と主要施策 3 産業がいきいきと活 発なまち ●施策の柱と主要事業 の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">観光の振興</td> <td>新市の誇り観光名所形成事業</td> </tr> <tr> <td>お茶文化交流観光拠点整備事業 ・お茶の都づくり関連事業</td> </tr> <tr> <td>“まつり” 観光振興事業</td> </tr> <tr> <td>地場産業活用観光振興事業 (削除)</td> </tr> <tr> <td>観光資源ネットワーク化事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	観光の振興	新市の誇り観光名所形成事業	お茶文化交流観光拠点整備事業 ・お茶の都づくり関連事業	“まつり” 観光振興事業	地場産業活用観光振興事業 (削除)	観光資源ネットワーク化事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">観光の振興</td> <td>新市の誇り観光名所形成事業</td> </tr> <tr> <td>お茶文化交流観光拠点整備事業</td> </tr> <tr> <td>“まつり” 観光振興事業</td> </tr> <tr> <td>地場産業活用観光振興事業 ・志戸呂焼の里づくり事業</td> </tr> <tr> <td>観光資源ネットワーク化事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	観光の振興	新市の誇り観光名所形成事業	お茶文化交流観光拠点整備事業	“まつり” 観光振興事業	地場産業活用観光振興事業 ・志戸呂焼の里づくり事業	観光資源ネットワーク化事業
施策の柱	主要事業																		
観光の振興	新市の誇り観光名所形成事業																		
	お茶文化交流観光拠点整備事業 ・お茶の都づくり関連事業																		
	“まつり” 観光振興事業																		
	地場産業活用観光振興事業 (削除)																		
	観光資源ネットワーク化事業																		
施策の柱	主要事業																		
観光の振興	新市の誇り観光名所形成事業																		
	お茶文化交流観光拠点整備事業																		
	“まつり” 観光振興事業																		
	地場産業活用観光振興事業 ・志戸呂焼の里づくり事業																		
	観光資源ネットワーク化事業																		
33	5. 新市の主要施策 (2) 基本方針と主要施策 5 自然と共生し、歴史 を大切にすまち ●施策の柱と主要事業 の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進</td> <td>環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業 ・最終処分場整備事業</td> </tr> <tr> <td>環境保全活動促進事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進	環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業 ・最終処分場整備事業	環境保全活動促進事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進</td> <td>環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業</td> </tr> <tr> <td>環境保全活動促進事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進	環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業	環境保全活動促進事業						
施策の柱	主要事業																		
環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進	環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業 ・最終処分場整備事業																		
	環境保全活動促進事業																		
施策の柱	主要事業																		
環境への負荷を低減さ せるまちづくりの推進	環境先進都市をめざす資源循環型社会形成事業																		
	環境保全活動促進事業																		
35	5. 新市の主要施策 (2) 基本方針と主要施策 6 人を育て、文化を創 造するまち ●施策の柱と主要事業 の表	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">芸術・文化活動の振興</td> <td>お茶文化研究発信事業 ・お茶の都づくり関連事業</td> </tr> <tr> <td>陶芸等伝統的文化の継承支援事業</td> </tr> <tr> <td>質の高い芸術・文化活動支援事業</td> </tr> <tr> <td>文化的イベント開催支援事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	芸術・文化活動の振興	お茶文化研究発信事業 ・お茶の都づくり関連事業	陶芸等伝統的文化の継承支援事業	質の高い芸術・文化活動支援事業	文化的イベント開催支援事業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の柱</th> <th>主要事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">芸術・文化活動の振興</td> <td>お茶文化研究発信事業</td> </tr> <tr> <td>陶芸等伝統的文化の継承支援事業</td> </tr> <tr> <td>質の高い芸術・文化活動支援事業</td> </tr> <tr> <td>文化的イベント開催支援事業</td> </tr> </tbody> </table>	施策の柱	主要事業	芸術・文化活動の振興	お茶文化研究発信事業	陶芸等伝統的文化の継承支援事業	質の高い芸術・文化活動支援事業	文化的イベント開催支援事業		
施策の柱	主要事業																		
芸術・文化活動の振興	お茶文化研究発信事業 ・お茶の都づくり関連事業																		
	陶芸等伝統的文化の継承支援事業																		
	質の高い芸術・文化活動支援事業																		
	文化的イベント開催支援事業																		
施策の柱	主要事業																		
芸術・文化活動の振興	お茶文化研究発信事業																		
	陶芸等伝統的文化の継承支援事業																		
	質の高い芸術・文化活動支援事業																		
	文化的イベント開催支援事業																		
40	7. 公共的施設の適正配 置と整備	<p>公共的施設の適正配置と整備は、<u>利便性、安全性などに十分配慮し、地域の特性や地域バランス、さらには財政事情を考慮しながら検討します。</u></p> <p><u>特に、庁舎を含めた公共施設の更新等に当たっては、公共施設マネジメントの取り組みの中で、既存施設の有効活用や広域的な相互利用を検討するほか、事業効果、管理方法などを踏まえ、住民からの意見を得るなど総合的な判断のもとで、均衡ある発展と住民福祉に最大限配慮した整備に努めます。</u></p>	<p>公共的施設の適正配置と整備は、住民生活に急激な変化を及ぼさないよう利便性などにも十分配慮し、地域の特性や地域バランス、さらには財政事情を考慮しながら検討します。合併に伴い支所となる役場庁舎等については、住民サービスの低下を招かないように十分配慮し、必要な機能の整備を図ります。</p>																

頁	項目	変更後（新）	変更前（旧）
41	8. 財政計画 (1) 前提条件	<p>(1) 前提条件</p> <p>合併後のまちづくりの歩みを確実に進めるため、普通会計の歳入及び歳出の項目ごと、過去の実績や現在の社会経済情勢をもとに推計した平成17年度から平成32年度までの財政計画を作成しました。</p> <p>歳入においては、現行の地方財政制度や税制改革に留意するとともに、合併特例債など地方債を効果的に活用すること、また、歳出においては、まちづくりのための普通建設事業費などの確保や少子高齢化の進展に伴う経費の増加、組織や職員数の見直しによる人件費の削減、事務の効率化による物件費の圧縮など、合併による歳出の削減効果を見込んで推計しています。</p> <p>平成17年度から平成25年度までは実績値（決算額）に修正し、平成26年度以降については、島田市総合計画後期基本計画との整合を図りながら、これまでの実績や中長期的な財政見通しを踏まえて財政計画を策定しています。</p> <p>なお、平成20年度以降については、旧川根町との合併後の数値を反映しています。</p>	<p>(1) 前提条件</p> <p>財政計画は、合併後の10年間（平成17年度から平成26年度）において新市のまちづくりを確実に進めるために、普通会計の歳入及び歳出の項目ごとに推計し、その財政計画を示すものです。</p> <p>推計においては、両市町の歳入・歳出のこれまでの実績や現況を踏まえ、現行の財政制度を基に、歳入においては、国庫支出金の廃止・削減や地方交付税総額縮小などの地方財政制度改革の動向等に留意するとともに、合併特例債など地方債を効果的に活用すること、また、歳出においては、新市まちづくりのための普通建設事業費などの確保や高齢化の進展に伴う経費の増加への対応を図るために、組織や職員数の見直しによる人件費の削減、事務の効率化による物件費の削減など合併による歳出の削減効果を見込んで推計しています。</p> <p>なお、平成17年度の歳入・歳出については、12か月に換算したものとしています。</p>
42	8. 財政計画 (2) 財政計画 文末	<p>(2) 財政計画</p> <p>なお、この財政計画は、平成14年度の決算数値等を基礎として、現行の財政制度のもとで推計しているため、今後の経済の動向や地方財政制度の改革などにより国庫支出金制度や地方交付税制度の改正等があった場合、その影響を受け、見直しや調整を行う必要が生じることが想定されます。</p>	<p>(2) 財政計画</p> <p>なお、この財政計画は、平成14年度の決算数値等を基礎として、現行の財政制度のもとで推計しているため、今後の経済の動向や地方財政制度の改革などにより国庫支出金制度や地方交付税制度の改正等があった場合、その影響を受け、見直しや調整を行う必要が生じることが想定されます。</p>

